

(電子メール施行)

農 技 第 1303号

平成30年 9月12日

各関係機関長 様

兵庫県病害虫防除所長

病害虫発生予察注意報 第1号を下記のとおり発表します。

シロイチモジヨトウの多発が確認されています。本種は多くの野菜類、花き類を加害するため、今後秋作の育苗、植栽が進むにつれて被害が拡大することが予想されます。発生状況に十分注意して、適切な防除につとめてください。

平成30年度 病害虫発生予察注意報 第1号

- | | |
|--------|------------|
| 1 対象作物 | 野菜・花き類 |
| 2 病害虫名 | シロイチモジヨトウ |
| 3 発生地域 | 県南部 (淡路地域) |
| 4 発生程度 | 多い |
| 5 発生時期 | 9月上旬～10月下旬 |

6 発生状況および注意報の根拠

- (1) 淡路地域で農業改良普及センターと共同で実施しているフェロモントラップ調査において、7月中旬以降誘殺数が増加傾向を示している (8月21日付け病害虫発生予察防除情報第3号参照)。
- (2) 8月中旬以降誘殺数が急増しており、8月4～6半旬の誘殺数の合計は506頭と、多発した昨年の同時期の279頭と比べて約1.8倍多くなっている (図1)。
- (3) ネギほ場における8月下旬の調査では、幼虫の発生が株率で24.5% (5ほ場平均) あり、多い発生となっているほか、カーネーションにおいても幼虫の発生が認められている。
- (4) 本種の季節的な発生最盛期は9～10月であり、今後、秋作の野菜・花き類の植栽に伴って被害が拡大すると予想される。
- (5) 近畿地方の向こう1カ月の気温は、平年並～高い (確率80%) と予想されていることから、本種の発生が助長されると考えられる。

7 本種の特徴

- (1) 本種の加害作物はネギをはじめキャベツ、ハクサイ、レタス、ホウレンソウなどの野菜類からカーネーション、キクなどの花き類と広範囲におよぶ。
- (2) 卵は鱗毛で覆われた卵塊で葉裏 (ネギでは表面) に産卵され (写真1)、孵化直後の幼虫は集団で加害する (写真2)。中老齢幼虫では、体側のピンクの斑紋が目立つ (写真3)。
- (3) 柔らかい部位を好んで食害するため、育苗中や定植直後にとくに被害を受けやすい。カスリ状に加害するほか (写真4、5)、吐糸で葉面を綴る場合もある (写真6)。
- (4) 蛹化は地表近くの土中で行われる (写真7)。成虫の体長は約12mmでハスモンヨトウやオオタバコガと比べてやや小型である (写真8)。

8 防除対策

- (1) 卵塊や集団でいる若齢幼虫を見つけたらすみやかに捕殺する。中・老齢幼虫に対しては薬剤が効きにくくなるので、薬剤防除はできるだけ若齢幼虫期に行う。
- (2) 昨年度実施した薬剤検定結果によると、スピネトラム水和剤、シアントラニリプロール水和剤などの効果が高い。エマメクチン安息香酸塩乳剤や一部のジアミド系殺虫剤では、効果が低い、またはほ場間で効果に差が見られており、使用にあたっては注意すること。
- (3) 薬剤防除を行う場合は、病害虫・雑草防除指導指針（兵庫県農薬情報システム）を参考にし、農薬使用基準を守る（<http://www.nouyaku-sys.com/nouyaku/user/top/hyogo>）。
- (4) 成虫の産卵防止対策として、防虫ネット（目合 4mm 以下）、黄色灯、性フェロモン剤（交信攪乱剤）の利用が有効である。

9 その他

本種は今後発生最盛期を迎えることから、県南部以外の地域でも多発するおそれがある。また、他府県では豆類での被害がみられていることから、ダイズ、アズキ類での発生にも注意する必要がある。

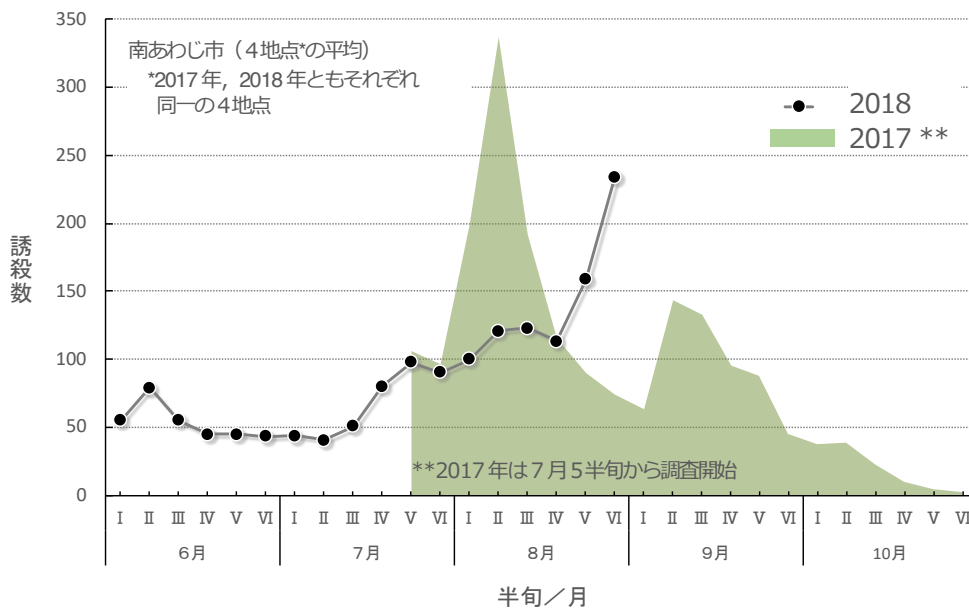


図1 フェロモントラップによるシロイチモジヨトウ誘殺推移の比較



写真1 シロイチモジヨトウ卵塊



写真2 若齢幼虫（集団で加害）



写真3 老齢幼虫（体側ピンクの斑紋が目立つ）



写真4 カーネーションの食害



写真5 幼虫と食害（キャベツ）



写真6 吐糸で葉を綴った幼虫と食害（ピーマン）



写真7 蛹（地表近くの土中）



写真8 成虫（体長約12mm、夜行性）

*この情報は、兵庫県立農林水産技術総合センターホームページに掲載しています。

(<http://hyogo-nourinsuisangc.jp/>)

問い合わせ先 兵庫県病害虫防除所 0790-47-1222